

ねこのあくび 第1回

2020. 5. 15

80歳になった機会に、普段思っていることを自由に書いてみることにしました。
取り留めもない話ばかりですが、暇な方は立ち寄って下さい。

目次	Page
笑っちゃだめ-----	p1
秋田の人-----	p2
ヤーコン、アピオスをご存じですか-----	p4
詰将棋の楽しみ-----	p6

笑っちゃだめ

第1話 新入社員の愉快的挨拶

私がソニーに入社した同期生で、笑い上戸で、ちょっとしたことでも「ガハッハッハ---」。3分間おきに笑い声が部屋中に響き渡る愉快的友人がいました。早速、女性軍から「ガー子」と言う綽名を付けられた。入社してほどなく新社員歓迎会があり、数十人の課員が広間で一杯やって、新人は順番に挨拶することになった。私は「どこどこの出身で、学校では何を専攻し、趣味は何々で...」と言った挨拶をする訳です。ガー子の番になり立ち上がって喋ろうと思った時、誰かが何か言ったらしく、ガー子は「ガハッハッハ...」といつもの通り。それを見た周りの何人かもつられて「アハッハッハ」。それにつられたガー子もまた「ガハハハ...」が数回。周りの連中も更につられて「アハハハ」。だんだん広がって全員が「ガハハハ」「アハハハ」。なぜ笑っているのか理由が分からない。数分間笑いまくって落ち着いたところで、ガー子が「終わります」と着席。一言も喋らず笑っただけの挨拶で、また全員「アハハハ」。

第2話 厳かな雰囲気壊すな

私が係長の時、若い社員が多くて結婚も多く、10回も仲人を頼まれました。ある神前結婚式での事。新郎新婦の親戚が両側に10人ほど向かい合って着席。やがて神主の厳かな祝詞が始まります。厳かなのが返って可笑しくなったらしく、新郎側の一人が笑いたくなかったが厳かな時に笑ってはいけないので懸命に堪えている様子。それを向かい側の何人かが気がついて笑いが移ってしまったがこちらも懸命に堪えている。その内、両側の全員に笑いが伝染して、きちんと座りながら体をよじって堪えている。それを見ていた我々仲人も頑張って耐えていました。知らぬは神主ばかりなり。

第3話 人迷惑なくしゃみ

電車の中は比較的空いていました。向かいの席に座ったおじさんが、突然大きな豪快なくしゃみを1っ発。続いて1っ発、また1っ発と止まらない。鼻の中に花粉でも詰まっているらしい。私の隣に座っていた高校生ぐらいの女の子が、4発目には可笑しくなりましたが、笑うとおじさんに失礼だと我慢。だんだん身体が震え出したのが隣にいる私にも伝わってくる。5発、6発となるともう我慢も限界、とうとう顔を両手で覆ってしゃがみ込んでしまった。更に数発やってから、おじさんは次の駅で降りていった。やっと正気に返った女の子に「大変だったね」と声を掛け、今度は遠慮なく「アハハハ…」と、二人で笑った。

秋田のひと

40年ぐらい前になるが、あるアメリカ人と夕食をしている時、彼は「毎日お爺さんが作ってくれたワインを飲んでおり、自分は孫のため毎年ワインを仕込んでいる」と。それを聞いて、自分は子孫に残すほどの遺産がないので、ワインを残すのは良いアイデアだと思い、ブドウを潰してワインにならないか試してみた。ところが何度やっても白いカビが浮いてしまって失敗。それに子孫に残すほどの美味しいワインなど素人に来る筈がない。尤もアメリカでは、ワイン作りの器具や防カビ剤など売っているのを見たが、日本では酒税法に抵触して輸入できないらしい。

そこでワインを諦めて果実酒にした。まずウメ酒から初め、次いで香りの良いに果物、例えばリンゴ、ミカン、カボス、パイナップル、カリンなど、次に野菜類で、ネギ、シソ、ショウガ、シイタケ、ニンニク、茶、紅茶など手当たり次第に漬け込んだ。朝鮮ニンジンが良いお酒になるらしいが、非常に高価なのでタンポポの根で代用。お勧めはキンモクセイの花。花をいっぱい焼酎に浮かせておく(勿論、氷砂糖も少々)、1ヶ月後には琥珀色で香りの強い世界一の珍酒が出来上がる。

さて、話代わって、20年ほど前のこと、秋田で学会があったが便利なホテルが予約できず、辺鄙なホテルに泊まる羽目になった。夕食はそのホテルに食堂がなく、5分ほど歩いたところの食堂を紹介されて行ってみると、常連と思しき10人ぐらいの客がお喋りの最中で、そこへ見慣れない客が一人来たので、「どこから来た、東京はどこだ、何の用で来た」、など矢継早。そして、「これは美味いから食ってみろ、これは秋田名物だから食え」など、次々美味しそうなご馳走をくれて、自分は何も注文しない内にご馳走様になってしまった。まさか只食いする訳にも行かないので、上等そうな酒を1本注文して注いで回ると益々盛り上がる。その内、何の拍子か果実酒の話になり、色々

珍しい酒を作っていると自慢げに披露した。店のカウンターに居たご夫妻も加わって楽しいお喋りの一時を過ごした。

自宅に戻って数日後、店の主人から小包が届いた。開けると何と果実酒が4本。それも「がまずみ」「さるなし」「山ぶどう」「またたび」と言う珍しいものばかり。これには驚き呆れた。いくらお喋りが楽しかったとは言え、初めての見ず知らずの客で、再び来るとも無い客にわざわざ貴重な果実酒を送ってこられたのです。損得や権利や義務などに囚われている人には出来ることではない。相手が喜んでくれればそれで良い。暖かい秋田の店の人の心に感じ入りました。私は「自他一如」を座右の銘にしているが、実際にはやっていることは正反対。人の喜びは、自分の喜び。人の悲しみは、自分の悲しみ。お母さんと赤ちゃんの関係がそんなものかも知れない。お母さんは、自分が赤ちゃんの身になって考えるのです。確かに赤ちゃんは自分の体から出てきた訳ですから自他一如です。自分など仮に人に親切する時でも、相手が喜んでくれることが最重要なのに、大体この程度しておけば良いだろうなどと、世間の常識に従っている訳です。秋田の人には、本当に教えられました。

頂いた時、絶対にお礼に行く決心したが、秋田や青森方面へ旅行するついでがなく、年賀状のやり取りになっていたのが、昨年12月にご主人の訃報が届き、「しまった」と思わず心の中で叫びました。ご存命のうちにお礼に行かなければならなかった。以来、心の中がもやもやしていましたが、せめてお墓参りでもさせて頂こうと、家内と一緒に秋田へ行ってお墓の前で手を合わせてきました。これで気分的には楽になったように思う。幸い奥様はお元気で、近くのホテルへお勤めでした。夕食に呼ばれて秋田名物のキリタンポを頂きながら、実に楽しい一時を過ごしました。

先日、散歩をしていると雨がぱらぱら降ってきましたが、まだ折り畳み傘を指すほどではないと少々濡れながら歩いていると、野菜を満載した車が寄ってきて、「旦那、傘があるよ。俺は車で自宅まで行くからこの傘をあげる」と。これまた親切な人がいると感激。災害地にボランティアで行く人も、自他一如なのでしょう。

秋田の人には、人生の生き方を教えて頂きましたし、周りには素晴らしい人が一杯います。自分も「自分中心」から「相手中心」の行動が自然に身につくようになれば素晴らしいと思います。私は80歳になり平均余命は9年になりましたが、真に楽しい充実した人生を送りたいと思います。

ヤーコン、アピオスをご存じですか

10年ほど前、近くの丘陵地を地主が家庭菜園に開放してくれ、1区画(50m²ぐらい)を年間3000円と格安なので2区画借りた。野良仕事は全く経験なかったが、周りのおばさん達が手取り足取り教えてくれるので、トマトやキュウリなど作って喜んでた。その内、折角作るなら店に売っていないものを作ろうと、ここ数年トライしている。昨年作ったものは、四角豆(大きな鞘を食べる。大量に採れて近所に配りまくる)、3尺ささげ(3尺まで伸びると硬くて食べられない。50cmまでに採ると柔らかい)、ジャンボなす(直径20cmほどの巨大なすが採れ、案外美味しかった)、ヤーコン(茎は竹のように中空で背丈ほどに伸び、食べるのは地下の根で大根より少し短い。生食に良く、おでんに入れても煮崩れしない)、食用ホーズキ(昨年初めて作ったが、非常に甘い実が沢山採れ大満足)、おかひじき(ひじきそっくりの形状だが、青い葉っぱ)、アピオス(マメ科で2~3mも蔓が伸び紫色の花が咲くが豆は成らない。地下にできる卵大の根を食べる。味はクリに似ている)、ソーメンかぼちゃ(茹でて箸でかき混ぜるとソーメンそっくりの糸状になる。子供がソーメンを作って大喜びするので、誰にあげても喜ばれる。昨年は双葉の時、葉っぱを虫に食われて丸坊主されてしまって生育が悪く、3株植えて2個しか採れなかった)、フサスグリ(数年前に植えた木に赤い実が沢山成り、家内が喜んでジャムにした)。野良ではなく庭の片隅にアスパラガスを植えたのが、ぐんぐん伸びて3mぐらいの高さの木になった。1日に10cmも伸びるので驚き。計算すると1秒に高分子を1億個以上も光合成しているのは凄い。冬に枯れるが宿根草なので次の年にまた出て来る。夏は雑草取りで毎日汗びっしょりだが、植物の生育を見るのは楽しい。

数年前、大蛇のような巨大ズッキーニができ、記念写真を載せておきます。ズッキーニはかぼちゃの仲間で、味もかぼちゃに近いが甘みが少々足りなかった。



大蛇のようなズッキーニ

近くの小高い山に色々な動物が生息していて夜になると出没する。菜っ葉類は鹿に食べられ、じゃがいもは猿に食べられた。背丈ほどのネットで囲ったが、猿は軽く乗り越えてピーナッツが全滅。周りの人もキュウリやトマトを齧られている。野菜をやめてジビエに転向しようかな！ 少しぐらいは猿に挙げてもいいが、山ヒルを落として行くのは困る。去年は、首と足に2度も噛まれた。山ヒルは、血が固まらない毒素を人の毛細血管に入れるので長時間出血し、足を噛まれた時は気が付かないうちにズボンが血だらけになった。ただ、噛まれた周りを指で押さえて血を絞り出すと毒素も一緒に排出されるので止血できる。止血法を覚えたので、もう山ヒルにはひるまないゾ。

昨年、娘が鹿児島から桜島大根の種をお土産に買ってきた。鹿児島のシラス台地でしか育たないと思っていたが、念のため植えてみると、二つだけサッカーボール大の大根ができた。植える間隔が狭すぎたと思い、去年はたっぷり間隔を取って植えたところ、10個もできてしまった。作るが面白くて作ったが、さて10個も巨大大根ができてしまってどうするか？ 我が家では1個を食べるのに1週間では食べきれず、こんなに作ってしまって始末に困り、親戚や友人にも配りたかったが、重さが5kg以上もあって持って歩くのも大変、近所に配りまくった。余った大根な細切りにして天日で干してカラカラになったのを酢につけて食べている。

皆様も珍しい野菜をご存じでしたら、ご連絡下さい。



サッカーボール大の桜島大根
重さが9kg、周囲が1m20cmありました。

詰将棋の楽しみ

私の趣味は下手の横好きばかりですが、その中で詰将棋だけは少々レベルが高いと思う。将棋のプロ棋士は、小学生の頃から天才ぶりを発揮するらしいが、私は回り将棋や積み木崩しなどに興じているだけで駒の動かし方も知らなかった。中学生になって将棋を本格的にプロ棋士から指導を受けている友人と知り合い、彼と何度も相手している内に定跡など覚えて強くなりました。私はプロ棋士に習ったことはないが、彼から間接的に習っていた訳です。新聞社主催の将棋大会に出て、強い中学生がいると友人と二人が新聞紙上に写真が出たこともありました。彼とはメクラ将棋をよくやりました。盤を見ないで座標を言えば良く、頭の中に局面が形成されている訳で、電車の中などで26歩、84歩などと言っているのを回りの乗客が変な顔で見っていました。

大学では将棋部に入り、関東大学対抗戦での成績が良かったので3段を頂いた。町の道場では5段と称していました。ソニーに入社して囲碁が県代表クラスの友人と知り合い、将棋盤と囲碁盤を並べて、将棋は私が飛車を落とし、囲碁は3石置いて貰ってお互いに教えあった。その結果、囲碁も道場では5段で打てるようになりました。ただし、囲碁は複雑な局面になるとウンウン唸りながら考えないと分からないが、将棋の方はほとんど考えなくても手が見える。同じ5段と称しても全くレベルが違う。瞬時に手が見えると言えば大変な才能かと思われるかも知れないが、下の囲み記事にあるように訓練の賜物なのです。

プロ棋士の直感 あなたにも

理化学研など「回路」解明

素人でも訓練すれば、プロ棋士のような思考回路になれる――。そんな研究結果を、理化学研究所や電気通信大などが発表した。訓練を重ねることで素人の脳内でも、プロが直感的に「次の一手」を導き出すときに使う神経回路と同じ部分が発達したという。

研究チームは、将棋の素人20人に対し、計4カ月にわたり、縦横5マスの盤上で6種類の駒だけを使う簡略化した「5五将棋」で訓練した。訓練の前後で20人の脳が活性化する箇所を機能的磁気共鳴断層撮影（fMRI）で測定したところ、訓練後には、プロが直感的な一手で使うのと同じ神経回路が発達し、思考能力が向上、将棋が上達したことがわかったという。

チームは、プロの直感には特別なものではなく、訓練によって養われたと結論づけた。結果は28日付の米科学誌「ジャーナル・オブ・ニューロサイエンス」に掲載された。（田中誠士）

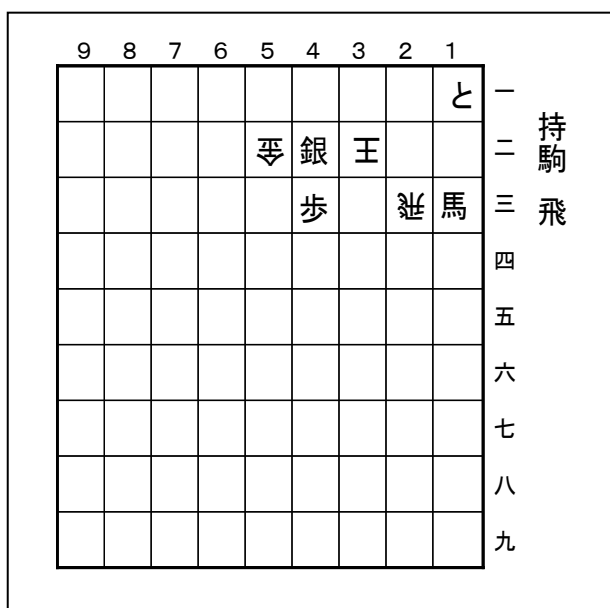
朝日新聞 2012年11月28日夕刊より

20～40歳代はもっぱら仕事のため将棋をご無沙汰していたが、詰将棋パラダイスと言う詰将棋マニア向けの月刊誌だけは見ていました。この雑誌に初心者向けの欄があり、その担当を2年間引き受けました。全国の小中学生などが作った詰将棋作品が送られてくるのを添削し、良い作品を数点紙上に載せる。彼らのために優しい作を50題集めた小冊子を自費出版しました。500部刷ったが人伝てに聞いた人から注文が来てアツと言う間に無くなってしまった。定価を百万円にしたため、誰も代金を払ってくれませんでした。昨年その小冊子が神田の古本屋に4000円で売っていたと聞いて呆れました。

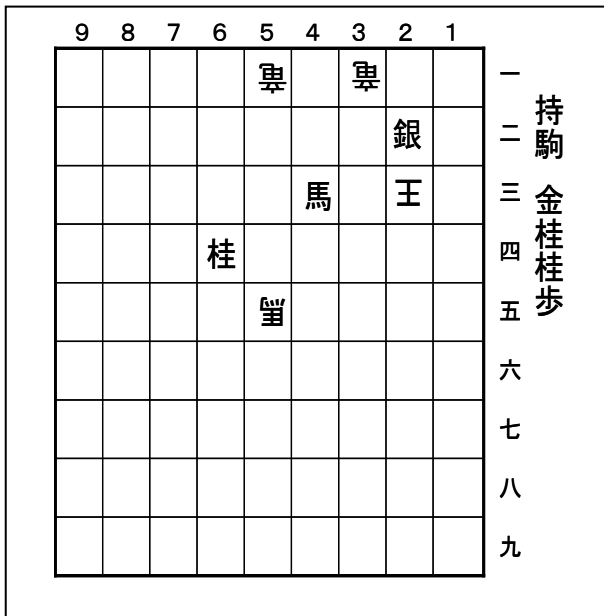
その作品から簡単な3手詰め作を呈示します(第1図)。攻め手はたった2手、受け手は1手動かすだけで詰む訳です。詰められなかった方のためにヒントを出しますと、初手は馬を動かすのですが、どこへ？(詰将棋は捨て駒に妙手があります)。

第2図は少々難しい作で、詰め手順は、15桂、22王、23金、11王、44馬、33竜、同馬、同馬、12飛、21王、22歩、31王、11飛成、42王、51竜、同王、52飛、41王、53桂、31王、21歩成、同王、12飛成、31王、41桂成、同王、52桂成、31王、32金、同馬、23桂不成、同馬、42成桂まで33手詰。

この作は、是非盤に並べて鑑賞して頂くと感嘆の声を挙げるでしょう。序盤の44馬と只で捨てに行ったのを取ると簡単に詰むので取らないところと、序盤で打った金と桂馬が最後に消えて行くのと、收拾が駒2枚で綺麗に仕上がります。これを清涼詰と言って作品の価値を高めるとされています。



第1図
3手詰

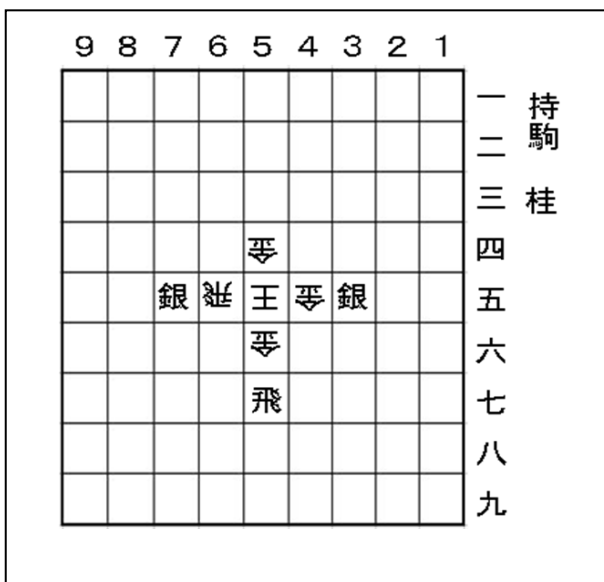


第2図
33手詰

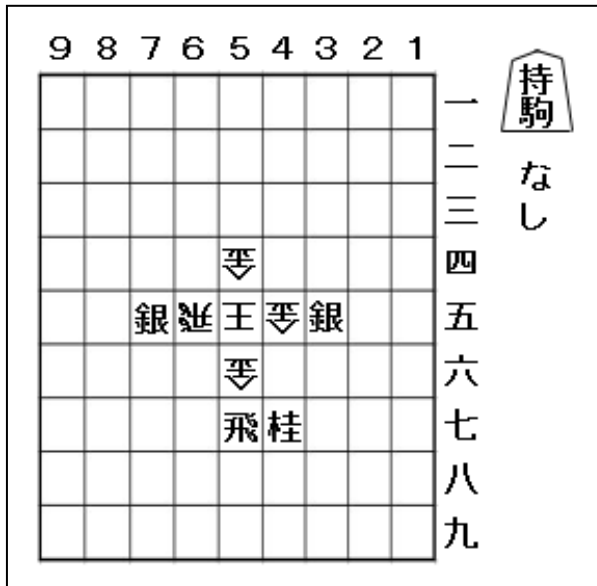
詰将棋の製作は、電車の中で考えることが多かったが、会社の会議中にも時々やっていました。話題が自分に関係なく下らないと、議論に参加しているフリをして、頭の中では詰将棋を解いていたが、周りの人は誰も分からない。お釈迦様でも気が付くめい。

ここ20年間ほど詰将棋とはご無沙汰でしたが、年賀状にその年の干支に関係ある作品をマニア同士が交換していました。第3、4図は平成十七年の作で、初形が「十」で、詰め上がりが「七」になるお笑い1手詰め曲詰です。

一般の方は詰将棋の年賀状を貰っても面白くないと言われるので、最近は年号を織り込んだ虫食算にしています。毎年、数人の方から先を争って回答が送られて来ます。第5図は、2013. 1. 1を織り込んだ作です。



第3図
初形「十」、
詰め上がり
曲詰



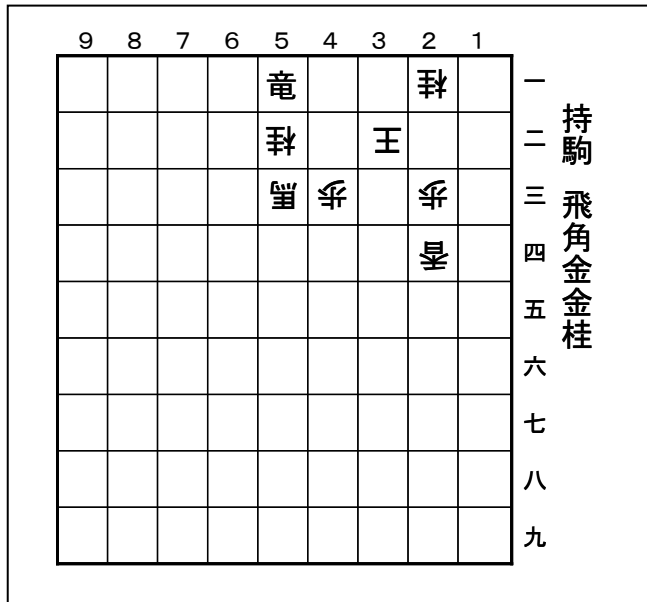
第4図
詰め上がり「七」で、
初形とで「十七」

何だバカバカしい。

$\begin{array}{r} \square\square\square \\ X \quad 1 \quad 1 \\ \hline \square\square\square \\ \square\square\square \\ \hline 2 \quad 0 \quad 1 \quad 3 \end{array}$ <p>易しい</p>	$\begin{array}{r} \square\square\square \\ X \quad \quad \square\square \\ \hline \square\square\square \\ 1 \quad \square \quad 1 \quad \square \\ \hline 2 \quad 0 \quad 1 \quad 3 \quad \square \end{array}$ <p>中易</p>	$\begin{array}{r} \square \quad 1 \quad 1 \\ X \quad \quad \square\square \\ \hline \square\square\square\square \\ \square\square\square\square \\ \hline 2 \quad 0 \quad 1 \quad 3 \quad \square \end{array}$ <p>難解</p>
---	---	---

第5図 2013年 年賀虫食算

古希になったのを機会にボケ防止には詰将棋が良いと思い、以前の小冊子の続編を作るべく創作を始めました。5手詰、7手詰程度の軽い作品が100題ぐらい出来ましたが、本当に満足できるのは1~2割ぐらいなので、出版などは当面は無理。その中で一つかなり凝った作品が出来たので、将棋世界と言う雑誌に投稿してみました。すると詰将棋欄に採用されただけなく、年間の最優秀作の選考に残ってしまい、詰将棋に強いプロ棋士数名が色々な角度から選考され、惜しくも優勝は逃したが2位に入りました。更に詰将棋パラダイス誌でも最優勝候補に上がって議論されました。それが第5図です。プロ棋士の中でも詰将棋に強い谷川浩司元名人でも「この作は解くのにてこずった」と言われていたので、素人の高段者でも1時間考えても解けるかどうか？ この作は、有力な駒の飛車を捨ててしまうのが気がつき難く、詰め手順が難しいだけでなく、初形が実戦に現れそうな無理のない簡素形で、詰め上がりも角と金だけで詰む清涼詰が評価されたものです。



第5図
雑誌入選作
17手詰

詰将棋などやって何になるって？

禅士に学生が尋ねた。

「座禅をして、どんなご利益があるのですか？」

「ご利益などない」

「ご利益がないのに、なぜ座禅をやるのですか？」

「ご利益がないから、やるのだ」

詰将棋も座禅のようなものかも。

50手、100手のような大作を盤に並べないで暗算で詰ます場合、数時間没頭してただ無我の境地、夜も更けた頃やっと解けたところで何のご利益もないが、幸せな時間である。